

令和3年度学生生活満足度調査および生活実態調査

教務委員会・学生生活支援委員会

I. 調査時期、対象者数

1. 調査時期：令和4年1月下旬～2月上旬
2. 対象者および対象者数・有効回答数

対象者：令和3年度在學生（休学者を除く令和4年1月1日に在学している者）

	クラス別					学科別	
	NS1	NS2	NS3	CW1	CW2	NS	CW
対象者数	116	130	155	12	14	401	26
有効回答数	116	110	145	12	14	371	26

* 質問により回答数にばらつきが生じたため、有効回答数は最初の質問に答えた人数とした

II. 令和3年度の大学教育環境

令和3年度は新型コロナウイルス感染症蔓延による緊急事態宣言発令や繰り返される感染拡大により、下記のような環境の変化及び制限がかかり、学修環境は十分整った状況とはいえない1年であった。

【教育環境】

4月：前期授業開始から通常授業を開始した。

5月：緊急事態宣言の発令により5月17日から登校を全面中止しリモートでの授業を開始した。

6月：6月7日から6月20日まで一部演習科目を小グループ体制で再開した。

以降年度末まで：収容定員の50%減の学生数での対面授業体制を敷き、教育を止めない措置を講じた。

後期試験：令和4年1月に新型コロナウイルス感染症の第6波の急速な拡大により、通常10日間ある後期定期試験を1週間に短縮して火急な登校制限に対応できるよう備えた。

学外実習：実習先からの学生の受入れ中止や人数制限等が継続的に続き、学内実習への振り替えや時期の調整を行い対応した。

【行事関連】

入学・卒業式等の式典の縮小、学友会活動の縮小(スポーツ大会中止、クリスマス会縮小)、学園祭縮小、学科施設見学や交流会の縮小及び中止、生活の制限として県外移動の制限やアルバイト内容の制限など人々が交流を図る事柄に常に制限が加わった状況であった。

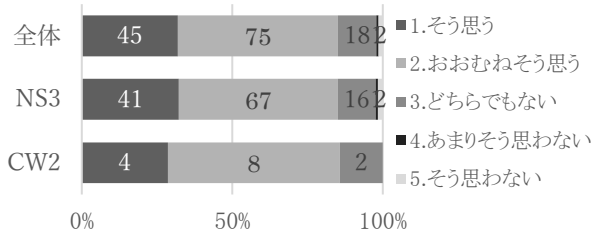
III. アンケート結果および分析

1. 教育に関する満足度：教務委員会

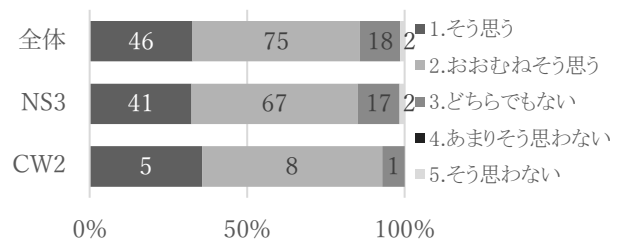
1) 卒業年次学生対象調査

- (1) 川崎医療短期大学ディプロマポリシー達成度

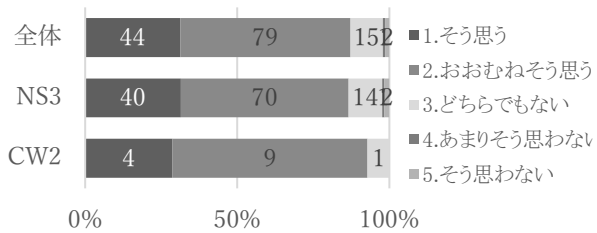
医療福祉社会の担い手として、
健全な心身が育まれたか？



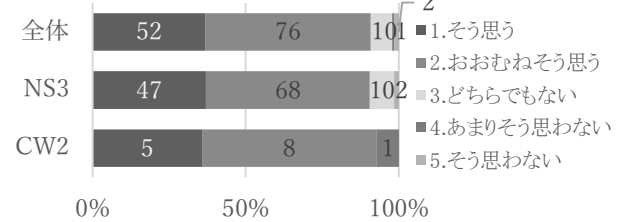
医療福祉の専門的な知識・技能を身につけ、
社会の発展に寄与できる力がついたか？



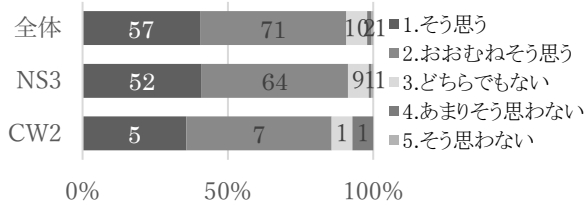
修得した知識・技能により、新たな課題を
発見し解決できる力がついたか？



他者の在り方を尊重し、支援、連携、
協働できる力がついたと思うか？



誠実で礼儀正しく、社会の規律を
守る倫理観が育まれたか？



(2) 各学科学修成果・ディプロマポリシー達成度

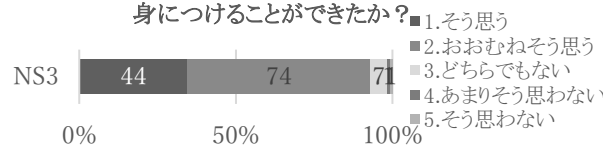
①看護科

a 学修成果

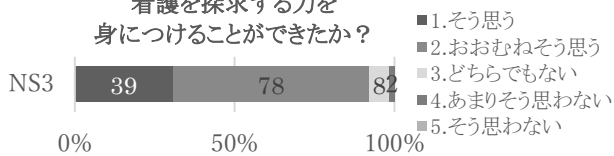
看護の専門的知識を
身につけることができたか？



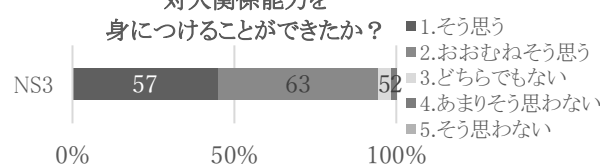
科学的根拠・思考に基づく看護実践能力を
身につけることができたか？



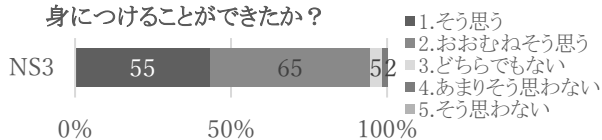
看護を探究する力を
身につけることができたか？



対人関係能力を
身につけることができたか？

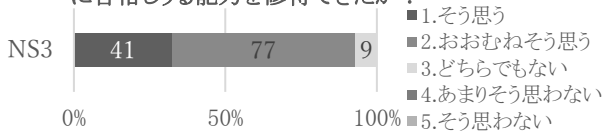


看護職としての社会性・倫理観を
身につけることができたか？

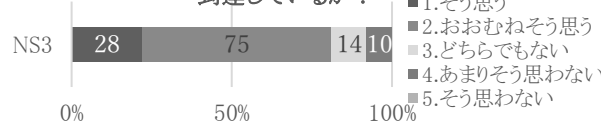


b ディプロマポリシー

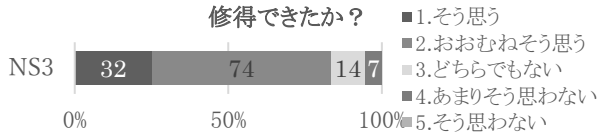
看護師に必要な知識とともに、看護師国家試験に合格しうる能力を修得できたか？



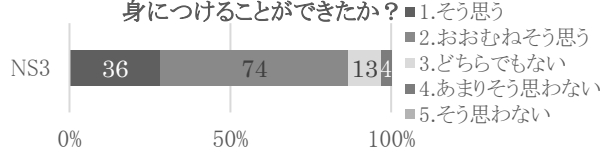
看護現場で必要とされる看護技術の水準に到達しているか？



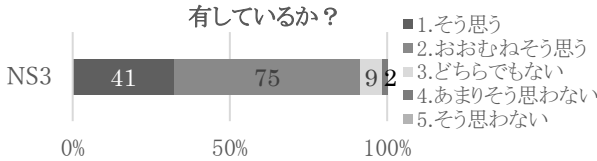
根拠に基づいた看護を提供できる実践能力を修得できたか？



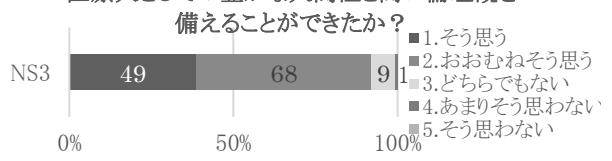
主体的に看護を探求する態度を身につけることができたか？



他職種と連携・協働する能力を有しているか？



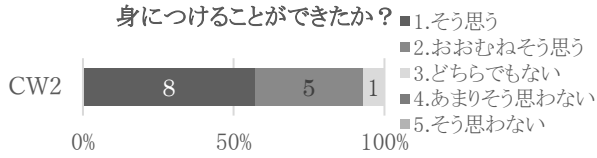
医療人としての豊かな人間性と高い倫理観を備えることができたか？



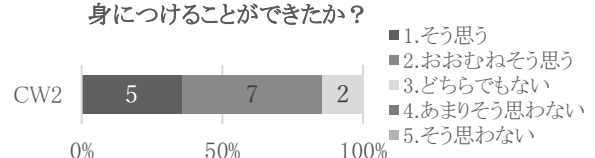
②医療介護福祉科

a 学修成果

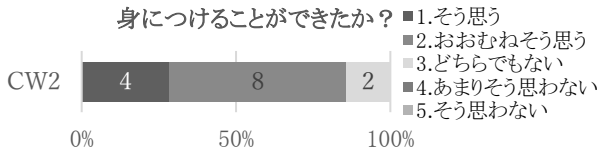
介護の専門的知識を身につけることができたか？



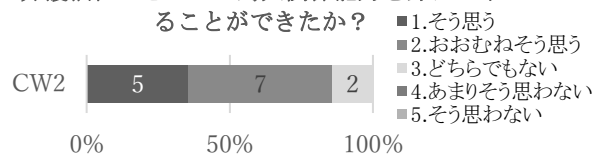
介護の実践能力を身につけることができたか？



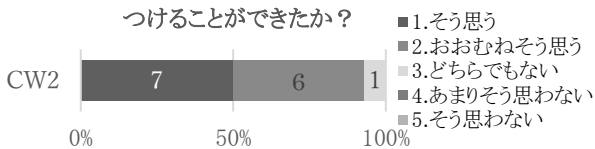
介護を科学的に探求する力を身につけることができたか？



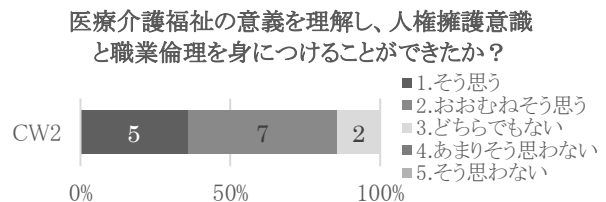
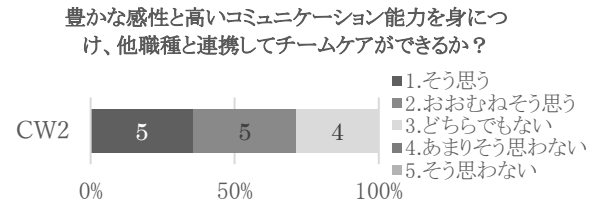
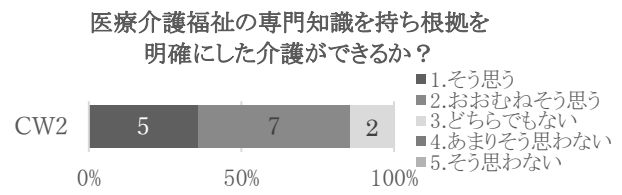
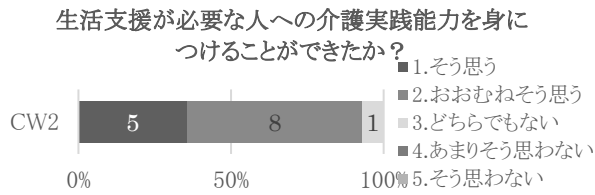
介護福祉士としての対人関係能力を身につけることができたか？



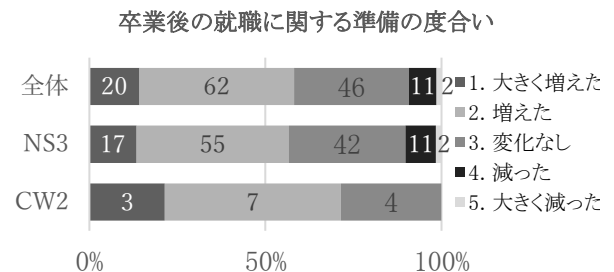
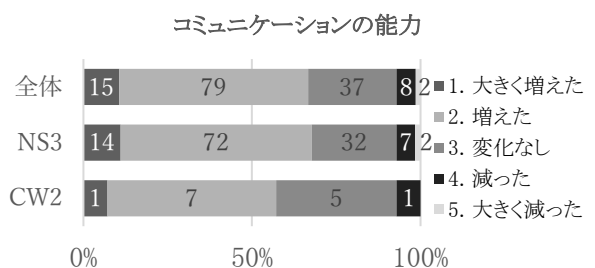
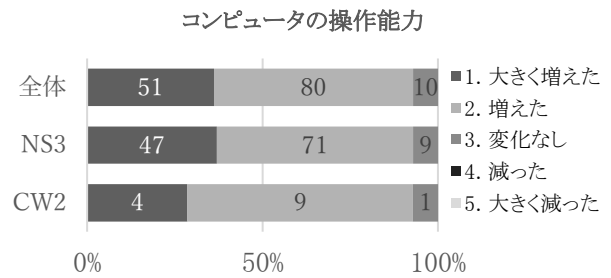
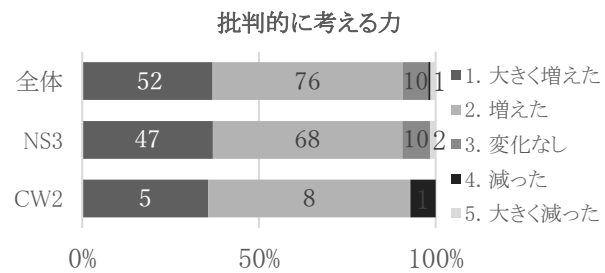
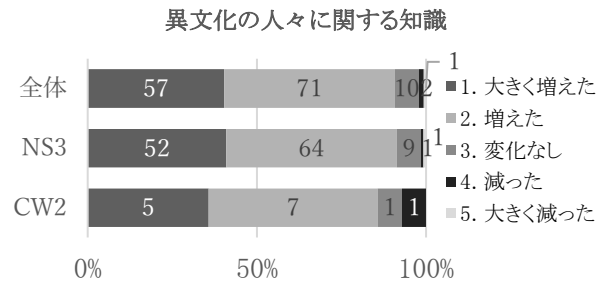
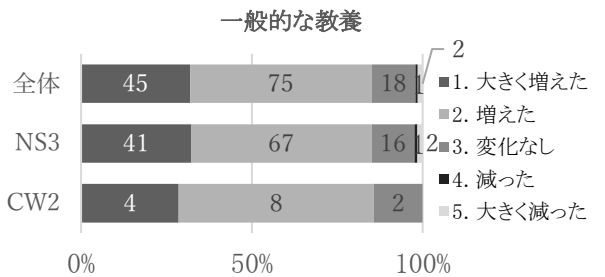
介護専門職としての人権意識と倫理観を身につけることができたか？

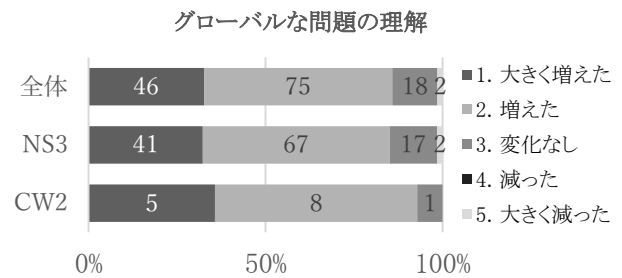
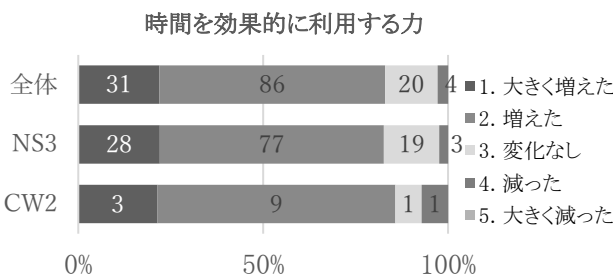
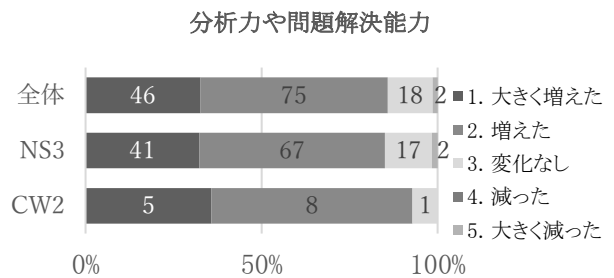
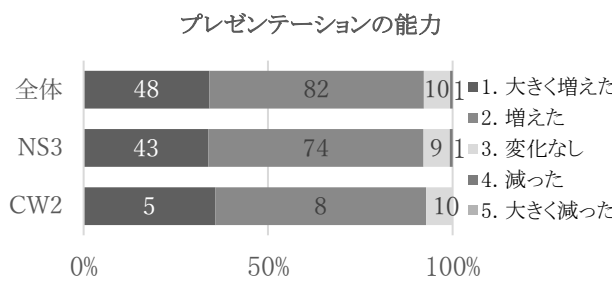
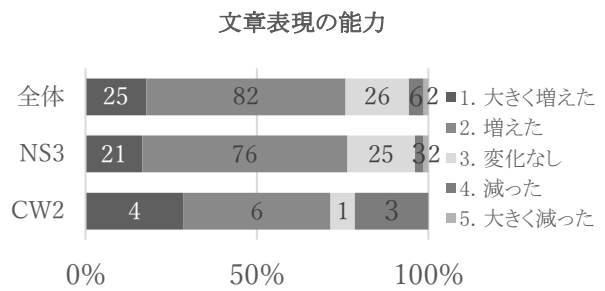
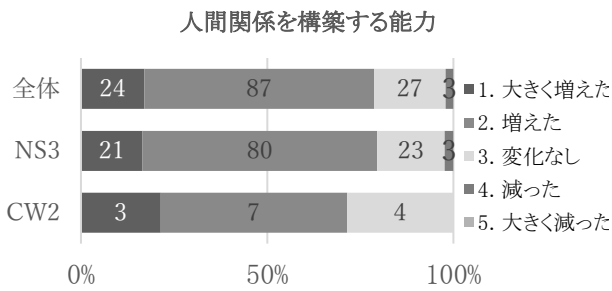
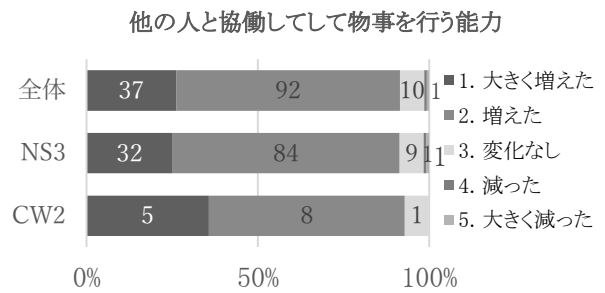
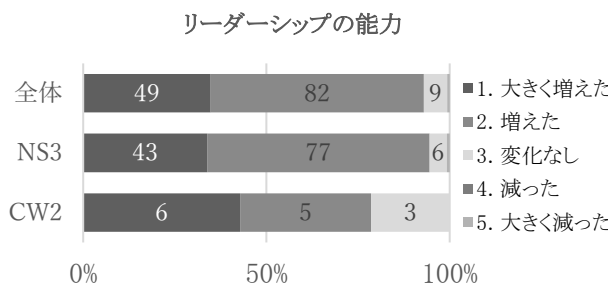


b ディプロマポリシー

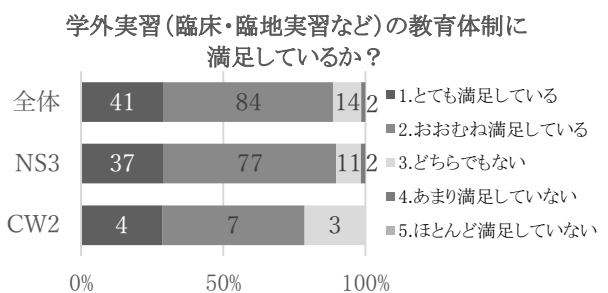
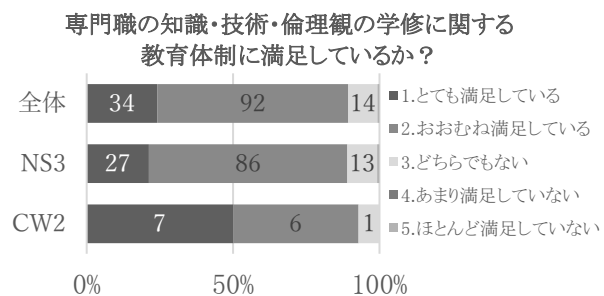


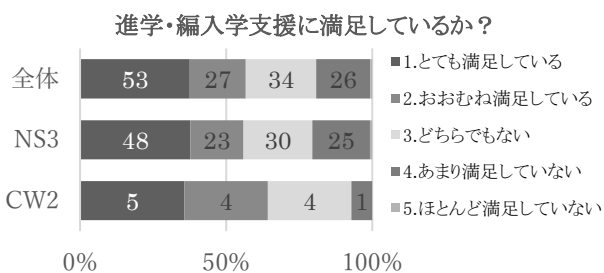
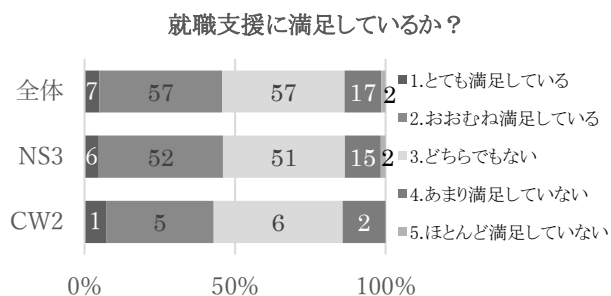
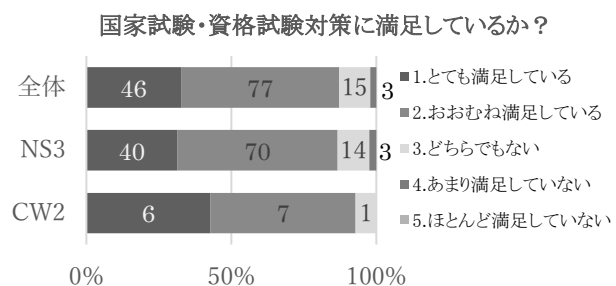
(3) 社会人基礎力自己評価





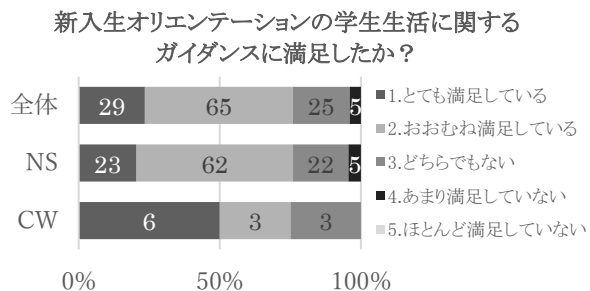
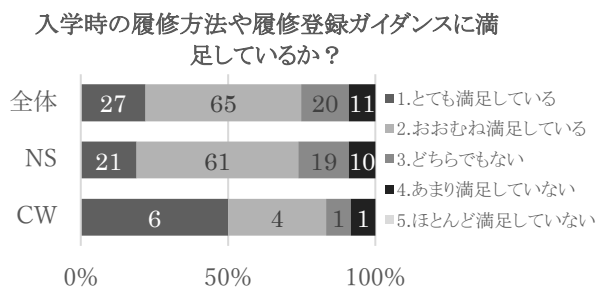
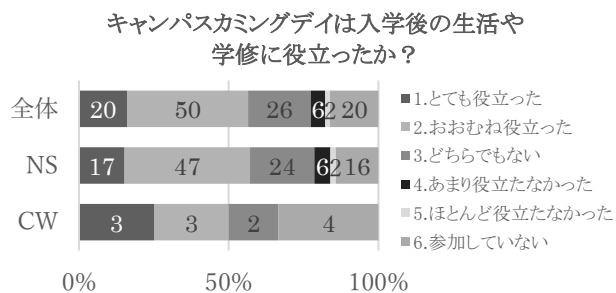
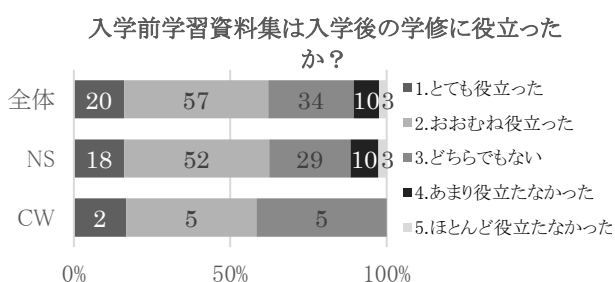
(4) 教育体制・支援に関する評価





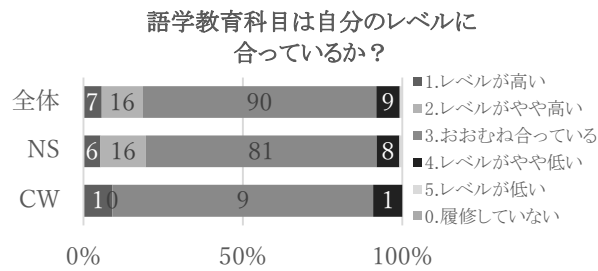
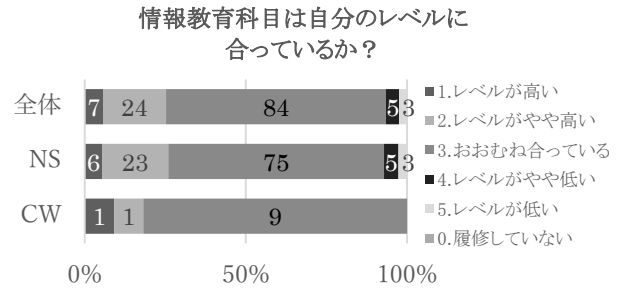
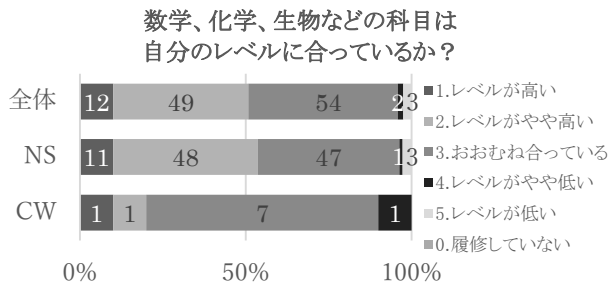
2) 全学年対象調査

(1) 教育体制に関する満足度(1年生)

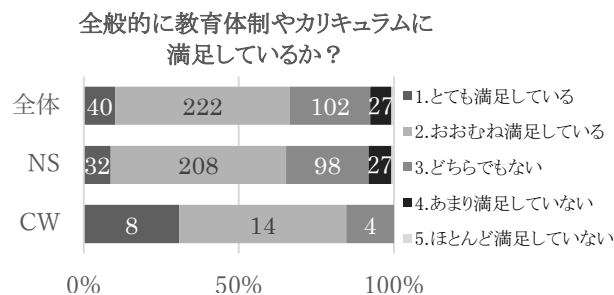
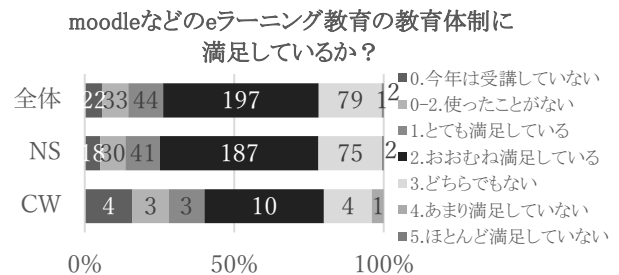
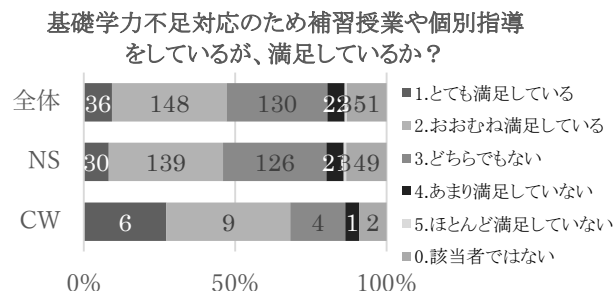
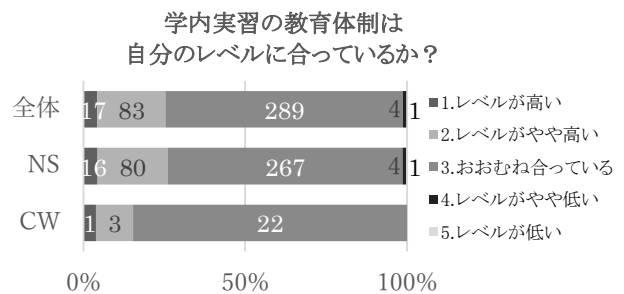
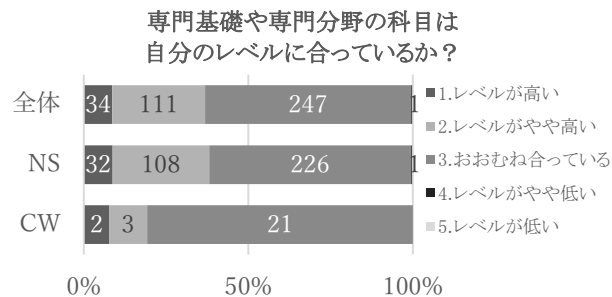


(2) 教育内容のレベルについての調査

① 1年生対象



② 全学年対象



3) 教育に対する満足度分析まとめ

卒業年次学生アンケートから、本学のディプロマポリシー 5 項目の達成度は、85%以上の学生がすべての項目で「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。さらに、各学科の学修成果については両学科ともに、学修成果が修得できているかの問いに対して、すべての学修成果の項目で「そう思う」「おおむねそう思う」と回答した学生が 80~90%以上を占め、各学科の学修成果はほとんど修得ができていると判断する。また、各学科ディプロマポリシーに関しても同様に高い達成状況であり、本学・各学科のアドミッションポリシーに基づいた教育成果として、ディプロマポリシーに則った能力を会得したと学生自身が判断しているといえる。一点、医療介護福祉科は、ディプロマポリシーのひとつである、豊かな感性と高いコミュニケーション能力を身につけ、他職種と連携してチームケアができるという項目のみが、71.4%と他のディプロマポリシーよりも低かった。新型コロナウイルス感染症の影響による学外実習の制限の影響が出ており、実習制限のなかであっても、他職種の専門性を知り、他職種との連携で必要な医学的知識を身につけ、機会あるごとに他職種との連携場面に参加させることで対応していく。

また、今年度から経済産業省が提唱している「社会人基礎力」が入学後に増加したかどうかも設問に加えた。14 項目中 12 項目で、80~90%の学生が入学時より能力や知識が「大きく増えた」「増えた」と回答した。特に異文化の人々に関する知識、批判的に考える力、コンピュータの操作能力が増加していた。「変化なし」と感じている能力は、コミュニケーション能力と卒業後の就職に関する準備の度合いであった。卒業後の就職に関する準備については、2 学科とも国家試験受験対策が該当すると考えられるが、学生の内容の捉え方の相違も考えられるため次年度は設問を工夫する。保健医療福祉概論では社会人基礎力を育む教育も行っている。まずは入学後間もない時期に始まるこの科目から、コミュニケーション能力の涵養について推進していく。

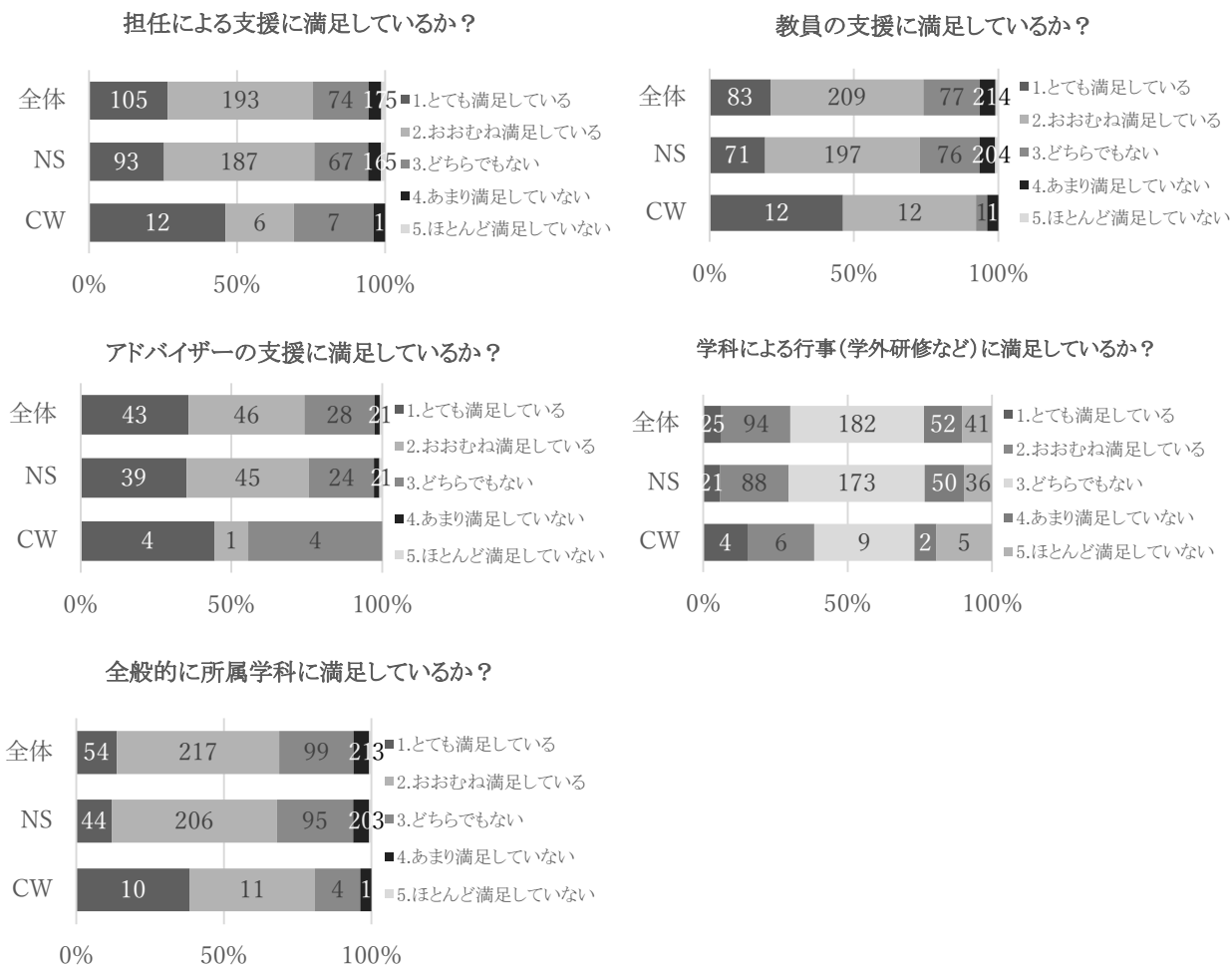
加えて、在学期間を全体の学修体制、学外実習支援、国試・資格試験対策、進学・編入学支援については「とても満足している」「おおむね満足している」と回答した割合が 9 割近くを占め、今後も教育体制や支援の維持に努める。就職支援については、川崎学園関係以外の就職は学生個々の活動が中心であり、満足でも不満足でもないとする「どちらでもない」との回答が 40.7%もあった。このことから相談行動をとっていない学生へも何らかの支援が必要なことが示唆された。

1 年生のみを対象にした教育体制に関する満足度調査では、前年度と同様に、履修方法や履修登録ガイダンス、新入生オリエンテーションに対する満足度が高かった。一方入学前に実施したキャンパスカミングデイは例年に比べ満足度が低下した。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により第 1 回目は Web 会議ツールのみで開催し、第 2 回目は Web 会議ツールと来学のハイブリット型での開催としたため、来学での参加率低下に影響したと考えられる。今後は可能な限り来場型の開催方法を継続するとともに、Web 会議ツールでの参加者も十分満足できる内容および方法を工夫していく。教育内容のレベルについての調査では、1 年生を対象とした基礎分野の授業科目では、語学教育科目、情報教育科目は自分のレベルにしていると回答した学生の割合が高かった。数学・化学・生物学等の科目は自分のレベルより高いと感じている学生の割合が高く、次年度からは教授内容や教授方法の刷新を図り、非常勤講師ともより緊密に連携していく。全学年を対象とした調査では、学内実習や専門基礎・専門科目等は自分のレベルにしていると感じている。補習授業や個別指導については該当学生のみで満足度をみた場合、満足していない学生はわずか 7%であったが、どちらでもないと回答した学生が多かった。このことから学生のニーズに沿った指導を考え実践していくことが大切である。全面登校中止期間も含め学生は、多くの制限や規制

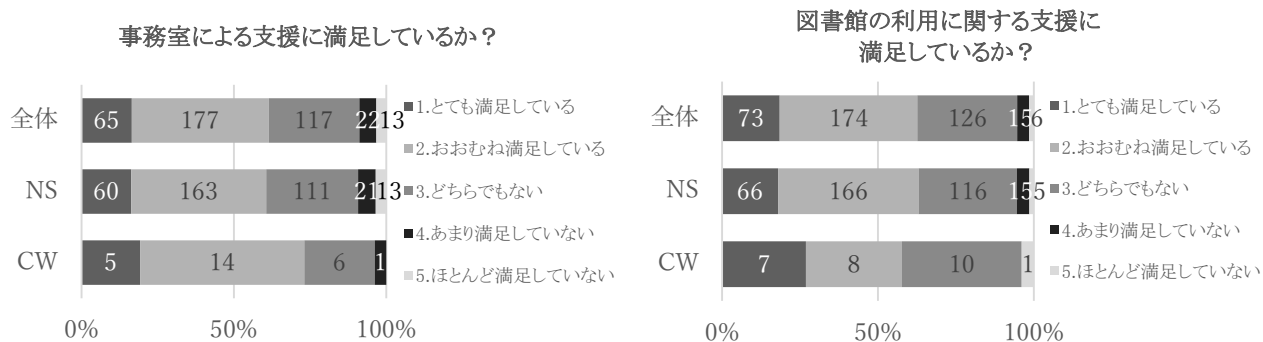
の中でストレスを抱えながら学修を続けている。学習環境の整備だけでなく学修成果獲得のためには、心理的サポートも充実させていく必要性を感じている。

2. 学生生活に関する満足度：学生生活支援委員会

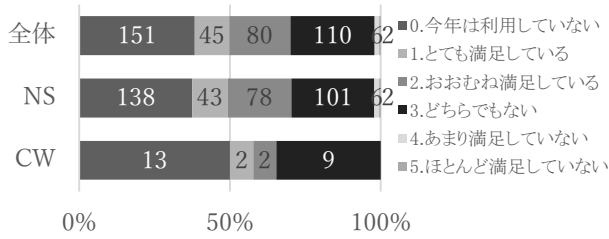
1) 学科支援



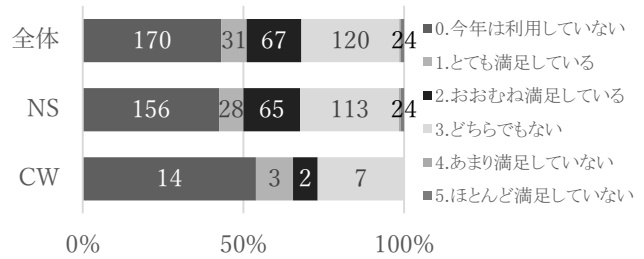
2) その他の部署の支援



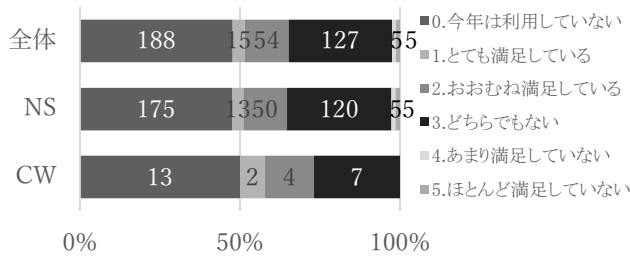
健康支援室による支援に満足しているか？



学生相談室・相談員による支援に満足しているか？

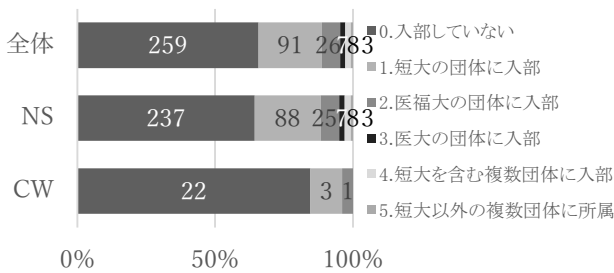


ハラスメント相談員による支援に満足しているか？

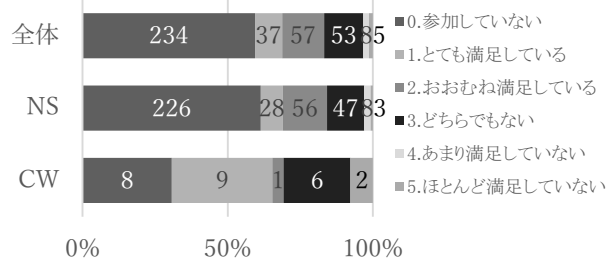


3) 学友会（部・同好会）の活動について

部・同好会の所属校はどこか？

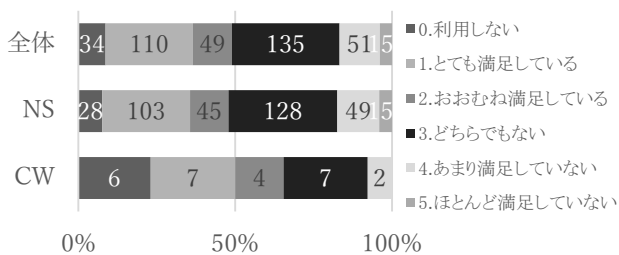


大学や学友会による行事(学園祭・スポーツ大会など)に満足しているか？

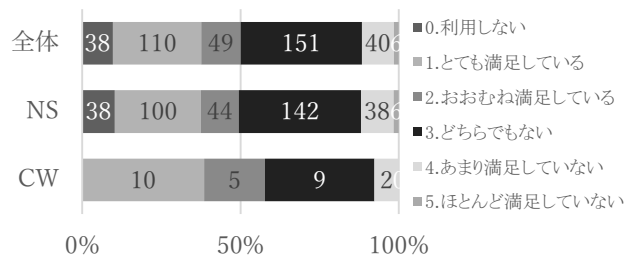


4) 飲食施設について

飲食施設・売店のサービス内容に満足しているか？

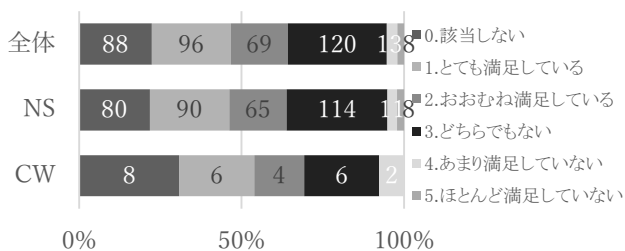


飲食設備(自販機・給湯器など)に満足しているか？

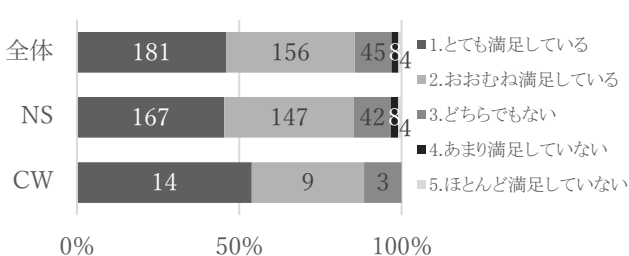


5) その他

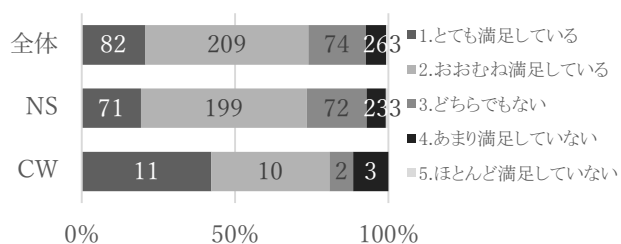
生活支援(奨学金など)に満足しているか?



友人関係について満足しているか?

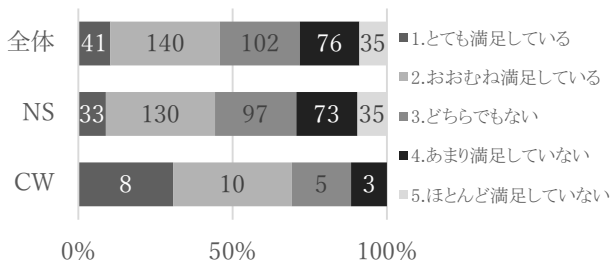


全般的に学生生活に満足しているか?

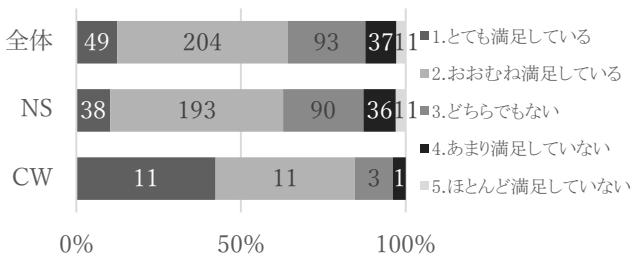


6) 施設・設備について

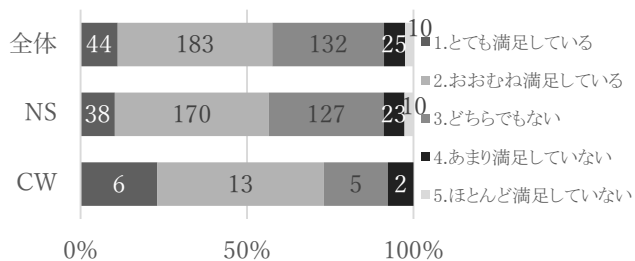
講義室の設備に満足しているか?



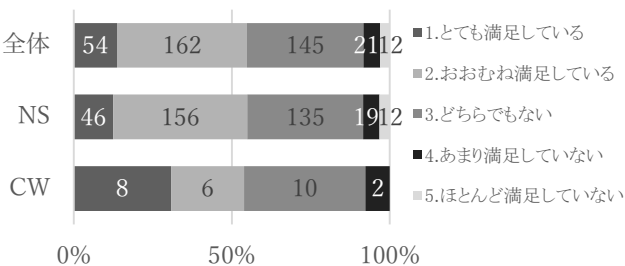
学科使用施設(実習室など)に満足しているか?



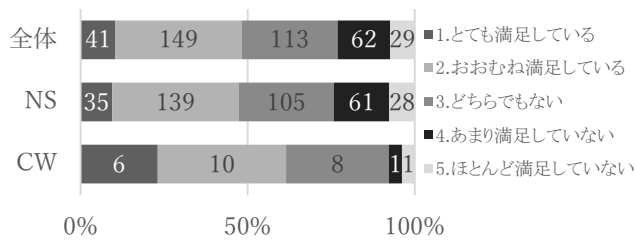
情報教育設備(情報教育室など)に満足しているか?



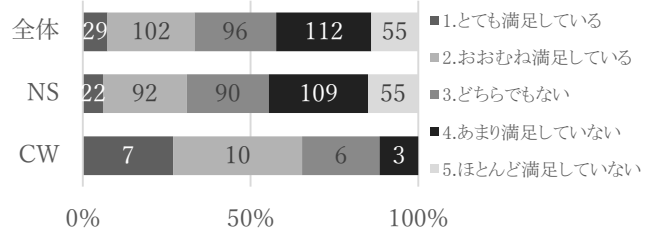
運動設備(体育館・グラウンドなど)に満足しているか?



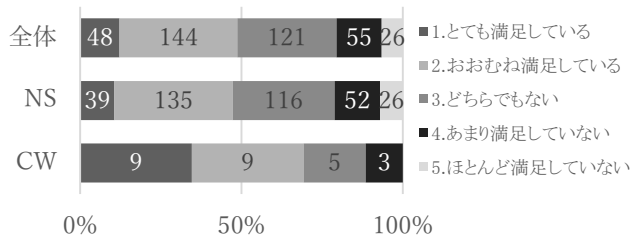
休憩設備（学生ホールなど）に満足しているか？



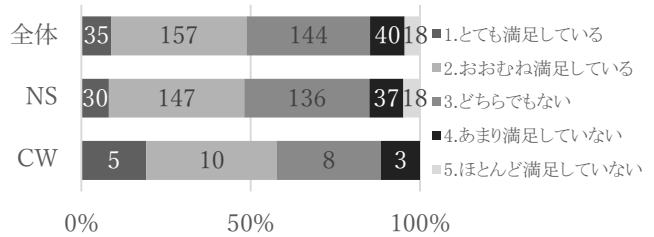
生活付帯設備（ロッカールーム・トイレなど）に満足しているか？



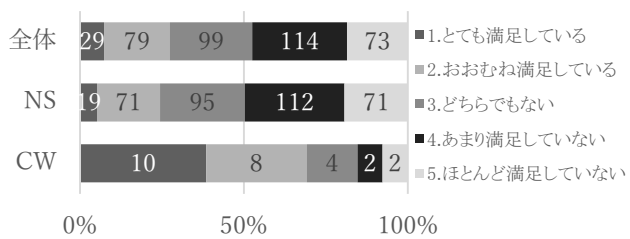
キャンパスの整備・美化に満足しているか？



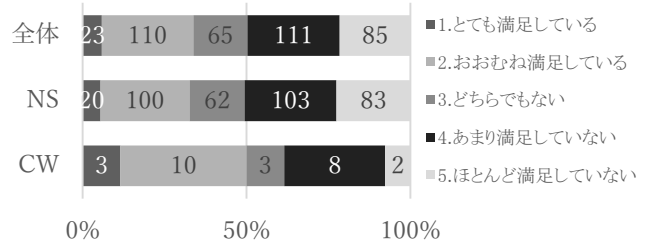
通学補助設備（駐輪場など）に満足しているか？



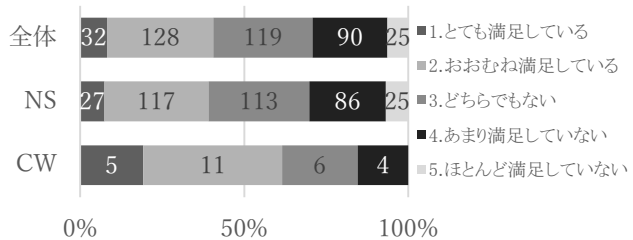
学内（寮を除く）ネット環境（無線LANなど）に満足しているか？



冷暖房設備に満足しているか？（寮を除く）

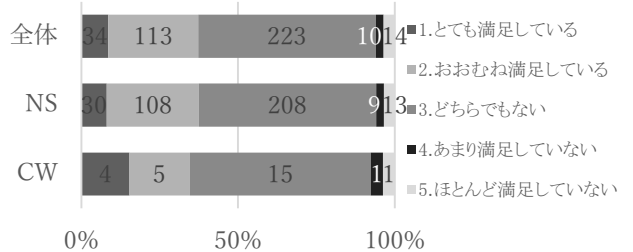


全般的に施設・設備に満足しているか？



7) その他

全般的な（学業、課外活動含む）学生表彰制度に満足しているか



8) 自由記述

(1) 新型コロナウイルスの影響で、学生生活環境の満足度が上がったこと

- ・授業に関すること（オンライン・オンデマンド授業になったこと 3/学校に行かなくても勉強ができて便利だった・自宅で勉強できる/自分のペースで学習できた 2/復習しやすかった/遠隔授業が受けやすかった/何度も講義動画が見直せる/実習が短期間だった/体育館で授業を受けられること)
- ・消毒液の配置の充実など感染防止のための必要物品
- ・ひとり時間が増え、無駄な出費が減った
- ・マスクを着けても心配されなくなった

(2) 新型コロナウイルスの影響で、学生生活の満足度が下がったこと

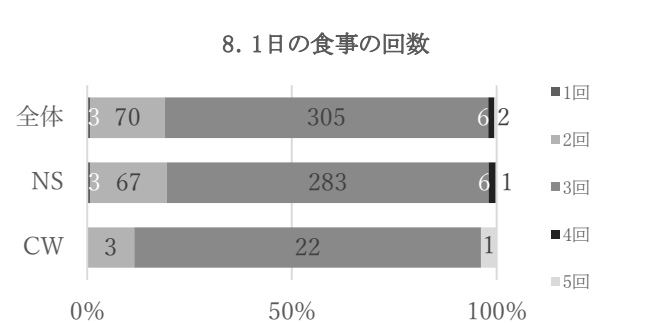
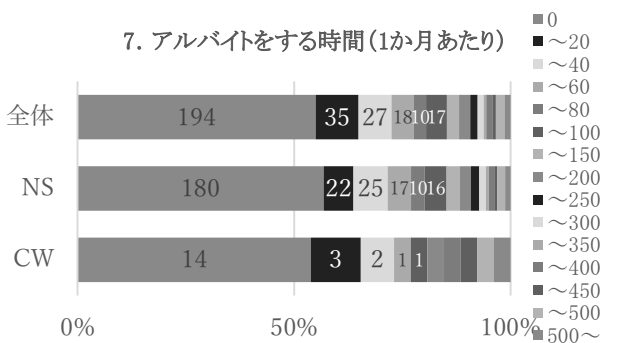
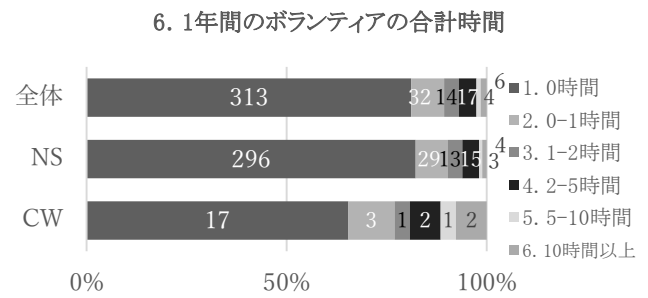
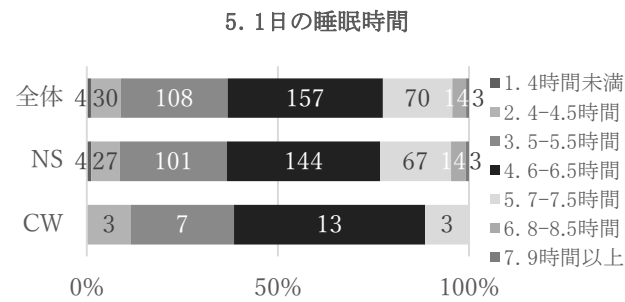
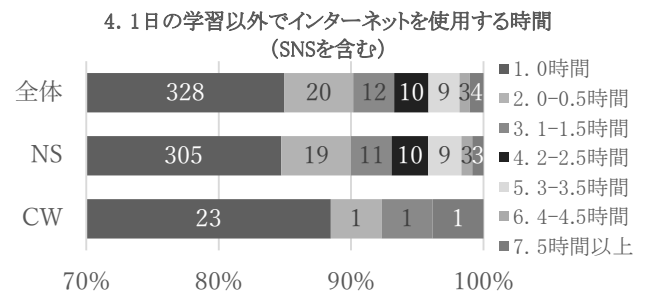
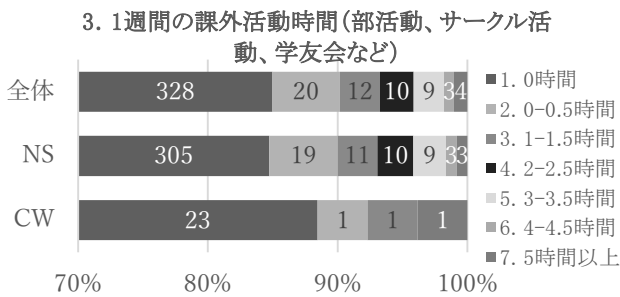
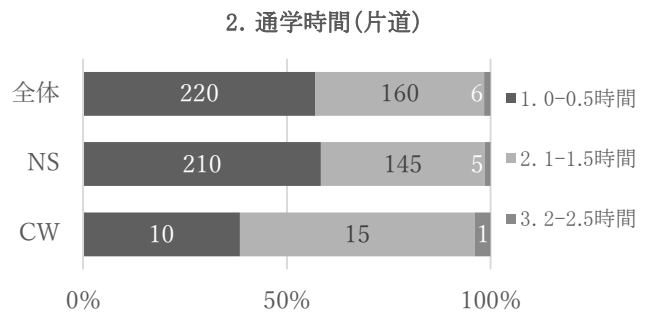
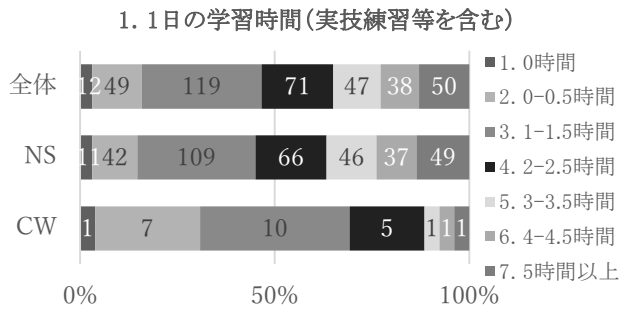
- ・授業に関すること（テストの期間が短くなった 4/講義室の温度/オンライン授業プリントのコピーが大変/機械を使った授業に時間がかかったりうまく作動しない時があり授業が進まない/もっと早くからリモートにしてほしかった)
- ・人との交流に関すること（安易に外に出れず孤独に勉強すること/顔がわからない/距離を保つことで仲が良い子以外との交流がない/友達と仲良くなる機会が減った/喋れない/コミュニケーションが抑制される/実習時のコミュニケーション)
- ・行動制限に関すること（食事の際に話すことができない 2/帰りに遊ぶことができない/何もかも制限された/リフレッシュできない/アルバイトができなかった/大学生をあまり感じれなかった/就職で県外が難しかった/研修会やインターンシップ等に参加できなかった/簡単に帰省できない/県外・海外旅行に行けない)
- ・行事等に関すること（学外研修がなかった/部活動がなくなった/課外活動がなくなった/行事がなくなった 7/学園祭に芸能人が来ない)
- ・その他（寮のスペースで勉強できなくなった 2/教員の態度・言動・対応)

9) 学生生活に関する分析まとめ

学生満足度の調査では、担任による支援、教員支援、アドバイザー支援など学科教員の支援体制に対して「満足している」「おおむね満足している」と回答した学生はいずれも7割を超えており、多くの学生が満足していた。一方、学科の行事関係では、「満足している」「おおむね満足している」と回答した学生は約30%程度にとどまり、学生の満足度は低かった。今年度も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染対策により、例年のように行事を実施することができなかった影響と考えられる。今年度はできる限りの行事を実施してきたが、学生が望むようなかたちでは行事を行えていないことのあらわれでもある。制限があるなかでもできるだけ学生生活に対する満足度が高まるためには、行事に学生の希望取り入れるなどの工夫が必要であると考えられる。

また学友会など学生が主体となって企画した行事について、「満足している」「おおむね満足している」と答えた学生は、合計で23.9%と低めの数字だった。ただしこれらの行事については「参加していない」と答えている学生が最も多く(59.4%)、過半数が参加していないなかで四分の一程度の学生が満足していることは評価できる。今後は参加の促し方にも工夫が必要であると考えられる。

3. 生活実態調査：学生生活支援委員会



生活実態調査分析まとめ

学生の生活実態調査では、79.4%の学生が学習以外でインターネットを1日2時間以上使用しており、4~4.5時間使用する学生および5時間以上使用する学生が合わせて20%以上いることがわかった。これらの時間が、他の活動や学習・休息・睡眠の時間に影響していることは十分考えられる。また、インターネットを安全に使用するための正しい知識も必要不可欠であるため、これらについては引き続き注意喚起する必要がある。